

とやま

1999
8
No.366

県広報とやま

富山県



みんなで応援2000年国体

特集／アイデアとハートで広げる、福祉のまちづくり



やさしい福祉のまちづくり賞がスタート。第1回の大賞(ソフト部門)を受賞した、おわらの里ふれあいホームの皆さん。

TOPICS [トピックス] 1

特集
アイデアとハートで広げる、
福祉のまちづくり 3

CLOSE UP [クローズアップ]
県が取り組む公共工事のコスト縮減 7

とやま感動案内
富山市天文台 9

地域をつくる仲間たち (人物カフェ)
グループ樹の実代表 若井直美さん 11

インフォメーション 13

行ってみよう情報 14

とやま音のある風景
二上山 平和の鐘 15

7月 2日

子どもたちの夢のせて
国体PRカー

七月二日、「国体PRカー」に描く子どもの夢の表彰式が行われ、最優秀作品をシールに貼ったPRカー五台が披露されました。

続いて訪れた吉江中学校では、約六十名の吹奏楽部員による軽快なドリル演奏に続いて部員たちと交流。生徒たちからは質問が相次ぎ、「知事はどんな音楽が好きですか」との質問には「ストレス解消のため、ベーターペンなどのクラシック音楽を聴いています。皆さんも休養と勉強にメリハリをつけて、充実した学生生活を送って下さい」とアドバイスしていました。

●問合せ 県庁広報課
076(444)3133

7月 5日

地域ぐるみで、
こころの教育

社会に学ぶ十四歳の挑戦

中学一年生が一週間、学校を離れ、地域の職場体験や福祉・ボランティア活動などやりたいことに取り組み「社会に学ぶ」十四歳の挑戦」事業が今年度から始まりました。



はじめての給油体験に少し緊張

この事業は、思春期の子どもたちに、地域社会との関わりの中で、社会性や生き抜く力を身につけてもらうというものです。

この事業は、思春期の子どもたちに、地域社会との関わりの中で、社会性や生き抜く力を身につけてもらうというものです。

トップを切って実施された井波町立井波中学校では、七月五日から九日までの間、二年生百三十一名が三十六のグループに分かれ、造園会社、自動車整備工場、ショッピングセンター、保育所、病院など、各々が希望した事業所で体験活動を行いました。

このうち同町坪野地内のガソリンスタンドでは、男子生徒四名が接客の心構えについて注意を受けた後、給油や洗車の作業を体験。「大変だね。がんばられ」と声をかけていくお客さんも多く、子どもたちは照れくさそうにしながらも、「充実感があつて楽しい。将来に役立つ何かを見つけられそう」などと話していました。

「十四歳の挑戦」事業は、今年、県内の中学校の約三分の一にあたる二十七校で実施が予定されています。

このような取り組みが、家庭や学校、地域社会が連携して子どもの教育を考えていくきっかけとなることが期待されます。

●問合せ 県教育委員会指導課
076(444)3452

7月 5日

住民とふれあう一日

福光町で、
知事のまちまわり

知事と県民が直接ふれあい、意見交換などを行う「知事のまちまわり」が、七月五日、福光町で行われました。



商店街を視察する中沖知事

も日本一の花と緑の県づくりのために地域ぐるみで頑張ってください」と激励しました。

午後からは、砂子谷農作業準備施設で町議会議員と懇談。国道三〇四号の整備などについて幅広く意見交換が行われました。

7月 9日

県民の健康づくりの拠点

富山県国際健康プラザが
オープン

県民の健康づくりの拠点、「富山県国際健康プラザ」(愛称「とやま健康パーク」)が、七月九日オープンしました。



中沖知事らによるテープカット



ストレッチング教室で健康づくり

とテープカットをして完成を祝いました。

九日から十一日には、オープニングイベントとして、健康づくりの体験教室や、気功・ヨーガの実演、ハープ展などが繰り広げられ、大勢の人でにぎわいました。

この施設は、県民一人ひとりに合った健康づくりを提案することが大きな特徴となっており、最新のトレーニング機器などを備えた「健康スタジアム」では、さっそく来館者がタッチパネル式のコンピュータで自分に合った健康づくりメニューを取り出し、実践していました。

同プラザでは、オープニングイベントの第二弾として、八月六日(金)・八日(日)にも多彩な催しを開催します。また、引き続き、健康づくりのためのイベントや講座を開催し、皆さんの健康づくりを応援していきます。

●問合せ 富山県国際健康プラザ
076(428)0809

シリーズ
とやま20世紀

1945 昭和20年8月2日(木)

B29 70機が来襲。
富山大空襲。

富山県への空襲は、この年の5月下旬、伏木港への爆弾投下に始まる。7月に入ると岩瀬地区の工場地帯にも数度来襲、人々は緊張を余儀なくされていた。8月2日午前0時過ぎ、富山市西南上空よりB29の編隊が侵入。無数の焼夷弾や小型爆弾を旧市街一帯に投下した。この日は風が強く、富山駅付近などから上がった火の手は、またたく間に市内をのみつきました。数時間に及ぶ爆撃と猛火により、市内は一部を除いて灰燼と化し、状況は悲惨を極めた。



上空より見た富山大空襲

毎年、神通川で開催される花火大会は、この空襲で犠牲になった市民への鎮魂と平和への願いをこめて、1947(昭和22)年に行われたのが始まりである。

本誌は古紙100%の再生紙を使用しています。



アイデアとハートで広げる、福祉のまちづくり

特集 総

ゆでん
キョウコ
なつこ

富山県民福祉条例が制定されて約三年、バリアフリーや福祉のまちづくりという言葉も徐々に定着してきました。福祉のまちづくりへの取り組みを表彰する「やさしい福祉のまちづくり賞」もスタート。今月の特集は、福祉のまちづくりをめぐる最近の話題や県の取り組みについてご紹介します。

着実に進む福祉のまちづくり

「ハード」とは、病院、集会場、ショッピングセンター、駅、道路、公園など、多くの人々が利用する「生活関連施設」をバリアフリー化すること。県民福祉条例は、生活関連施設を新築・増改築する際には、高齢者や障害者などが利用しやすくなるように整備しなければならないと定めています（※）。

※具体的な整備基準としては、「出入口の幅は八〇センチ以上」「通路の幅は一・二メートル以上とし、車いすの回転スペースを設ける」「車いす利用者も利用できる広いトイレを設ける」「出入口近くに車いす利用者用の駐車スペースを設ける」などが定められています。

また、規模が一定以上の「特定生活関連施設」については、新築・増改築の際にあらかじめ届出を求め、整備基準に適合しない場合には必要な指導助言を行うことができるというルールを定めています。

これからソフト面での取り組みも大切

特定生活関連施設に対する届出制が施行された昨年四月から今年五月までの間に合計二百三十三件の届出がありました。届出先は、これまでのところ、届出先としての工事着手や、整備基準に適合させるようにという指導助言に従わないなどの事例は一件もありません。また、新設・既設を問わず、建物全体が整備基準に合致している場合に交付される「県民福祉条例適合証」を取得した生活関連施設も六十七件を数えます。

県は、市町村施設のバリアフリー化に対する補助や、民間の施設に対する低利の資金融資、バリアフリー事例集の発行、アドバイザーの派遣などを通じて、広くバリアフリー化の促進を図っています。

ただ、福祉のまちづくりは、建物や道路などの整備自体が目的なのではありません。本来的な目的は、障害者や高齢者が外出しやすくなるようにして社会参加の機会を増やし、健常者と同じように生活できるようにすることです。

これからの福祉のまちづくりにおいては、ハード面を整備して物理的なバリアを解消するだけではなく、私たち一人ひとりが心のバリア（障害者等に対する誤解や偏見）を取り払い、あるいは一歩進んで、自立や社会参加を支援していくこと、つまりソフト面での取り組みが重要なのです。

県はこれまで、平成九年九月に発足した県民福祉推進会議と連携して、「いたわりの街づくり」をテーマとした福祉フォーラムを開催したり、おおむね小学校区レベルできめ細かく開催する小地域フォーラムの実施、福祉のまちづくりに関する提案募集など、ソフト面での施策にも取り組んできました。

「攻めの福祉」で、やさしい福祉のまちづくり大賞

「攻めの福祉」で、やさしい福祉のまちづくり大賞。昨年制定された「やさしい福祉のまちづくり賞」も、そのようなソフト面での施策のひとつです。

この賞は、率先して福祉のまちづくりに取り組んでいる企業、団体、個人を表彰するもので、①障害者や高齢者などに配慮された建築物等を対象とする「ハード部門」とともに、②障害者や高齢者などを支援する活動を対象とする「ソフト部門」が設けられています。第一回目となる今回は、ハード部門

「おわらの里 ふれあいホーム」

で八点（うち大賞一点）、ソフト部門で六点（うち大賞一点）が選ばれ、今年五月三十一日に表彰式が行われました。

このうち、ソフト部門で大賞となったのは、八尾町にある福祉作業所「おわらの里 ふれあいホーム」。この作業所は、障害者に働く場を提供する施設ですが、活動の先駆性と獨創性、そして実効性が高く評価され、今回の大賞受賞となりました。

同作業所を運営する「フォーレスト八尾会」の林のぶ子会長は、「福祉作業所だからこの程度しかできないとか、この程度でよいなどと、自ら限界を設定することなく、『攻めの福祉』をめざす姿勢が評価された」と笑顔で語ります。



おわらの里 ふれあいホームの運営スタッフの皆さん（中央が岩倉さん）

県が平成11年度に実施する「福祉のまちづくり」

本文でも紹介したように、県では県有施設のバリアフリー化を進めています。これは、県の建物や施設を、高齢者や障害者を含むすべての県民が「到達できる」「利用できる」という観点から整備しているものです。今年度中には、県庁、総合庁舎、県民会館、保健所、土木事務所、県立学校、警察署などが、ほぼバリアフリー化される予定です。

また、県有施設以外では、特に県民に身近な施設のバリアフリー化を進めることとし、昨年実施した県政世論調査で要望の高かった自治公民館のバリアフリー化に対する助成制度を新設しました。

さらに、高齢者や障害者などが外出しやすくなるように、駅のアプローチ化や福祉タクシー車両の購入に対する助成制度も新設しました。このうち福祉タクシー車両については、既に県内のタクシー会社6社が県の助成を受けて導入しており、現在11台が運行されています。



後部座席を回転させて、車いすからラクに乗り込むことができる福祉タクシー。

魅力のある商品開発で地域に密着

「おわらの里 ふれあいホーム」のモットーは、「単なる下請け作業所にはならない」ということ。色紙、うちわ、絵はがき、しおりなど、全国的に有名な伝統芸能「おわら」と地場産業「和紙」を取り入れたオリジナルの観光土産品を自ら開発し、制作しています。

なかでも、おわらを踊る男女をモチーフにした「くるみ絵」は、全国推奨観光土産品審査会で会長努力賞を受賞した逸品。一般の民芸品と並べても全く遜色がありません。毎年たくさんのお客さんが訪れる「おわら風の盆」のお土産品として好評を博し、最近では富山駅前前のCICいきいきKAN、富山空港などでも販売されています。「オリジナル製品にこだわること、スタッフや通所者には、『自分たちでつくって、自分たちで売る』という意識が



生まれ、下請け作業にはない充実感を感じているようです」と、運営責任者の岩倉伸一さんは胸を張ります。同作業所は、これ以外にも魅力のある商品を提供して地域に密着しようと努力しており、併設の売店には、バリアフリー農園で栽培した有機野菜やハーブなどが並んでいます。また喫茶店も併設され、毎週土曜日限定の「玄米カレー」などユニークなメニューがそろっています。「同情だけでは一回しか買ってもらえません。販売実績を上げて障害者の自立を支援するためにも、ここでしか買えないオリジナル商品や、付加価値の高い商品を提供して、お客さんに喜んでもらう努力が必要なのです。もちろん、マーケティングはしっかりやっていますよ。」

地域住民を巻き込む工夫
もうひとつのモットーは、「地域の人々に応援団になってもらう」ということ。売店や喫茶店の併設もそのためのものですが、これ以外にもさまざまな工夫が施されています。なかでもユニークなのが、毎月二回開催してきた「エンジョイ(援助)イ教室」。これは、地域の人々に作業所を開放して和紙製品の制作体験でエンジョイしてもらおうというのですが、実はこれが製品づくりの手伝い(援助)にもなるといって仕掛けです。



1. 通所者の中からも、制作の指導にあたる人材が育ちました。
2. 地域の人でにぎわう売店。
3. 車いすのまま収穫できるバリアフリー農園。
4. バリアフリー農園で栽培された有機野菜も人気商品のひとつ。

「教室の講師は通所者が務めています。通所者にとって、人に教えるということが、自己実現のよい機会になります。日々の作業にも自然と熱が入るようになりました。」

障害者の社会参加と「自己実現で「福祉のまちづくり」

最初は、自分たちのやっていることを地域の人々に見てもらい、理解してもらおう「見せる作業所」をめざしたといえます。やがて、魅力のある商品やサービスで「魅せる作業所」となり、いまでは、お客さんと通所者の両方が満足しあえる「満せる作業所」、みんなでいろんなことを「やってみせる作業所」になりました。また、おいしいものや楽しいことを提供し、特産品を開発することで地域おこしの一助を担う「元気の仕掛け人」にもなっています。

「障害者にとって、ここは、ただ働くだけの場所ではありません。『自分にもこんなことができるんだ』ということに気づき、それを人々にアピールする自己実現の場でもあるのです。」

スタッフたちは、「福祉のまちづくりとは、必ずしも障害者が障害者にあわせることではない」と言います。「むしろ、障害者のレベルアップを支援して、健常者と同じ、あるいはそれ以上の社会参加と自己実現の機会を提供する。そんな福祉のまちづくりがあってもいい。小さな作業所ですが、これからのいろんな福祉のまちづくりのあり方を提案していきたい。」

※「おわらの里 ふれあいホーム」の所在地は
〒030912304 八尾町黒田503-3
売店・喫茶店の営業時間は午前9時～午後6時
(日・祝休み)
☎076(454)2117

「おわらの里 ふれあいホーム」のほかにも、次のような施設や企業・団体が、「やさしい福祉のまちづくり賞」を受賞しました。皆さんも、できることから「福祉のまちづくり」に参加してみたいかがでしょうか。

●問合せ・ご意見は
県庁社会福祉課福祉の人・まちづくり係まで
☎076(444)3197
FAX 076(444)3491

第1回 やさしい福祉のまちづくり賞 入賞団体・施設一覧

ソフト部門(活動・取り組み)	大賞	賞	大賞	賞	ハード部門(建築物等)
フォーレスト八尾会 おわらの里ふれあいホーム	障害者と地場産業等をうまく結び付け、単なる障害者福祉にとどまらず、地域の社会資源となっている。	富山交通株式会社	高齢者や障害者が気軽にタクシーを利用できるよう、介助技術や接客技術のコンテストを実施している。	黒部サティ (ショッピングセンター)	トイレ、通路などの設備が、高齢者や障害者に十分配慮されている。また、授乳室も設けられている。
ボランティアグループ 福寿荘(魚津市)	保育園や小学校と協力して、高齢者と子ども達の交流事業を行うなど、地域ぐるみで高齢者を支援している。	砺波ふれあい号 友の会	15年間にわたり、福祉車両「ふれあい号」を運行。障害者の買い物や通院、観光など、外出を支援している。	済生会 富山病院 (総合病院)	わかりやすい案内と表示、段差のない床、補助具の配置など、すべての人が利用しやすい施設となっている。
大沢野町船崎地区 社会福祉協議会	地域の障害者施設と関わりを持ちながら、福祉とは何かという問題提起を行い、手作りの地域福祉を進めている。	大沢野町船崎地区 社会福祉協議会	地域の障害者施設と関わりを持ちながら、福祉とは何かという問題提起を行い、手作りの地域福祉を進めている。	となみ野農業協同組合 東野尻支店(金融機関)	障害者用駐車場を含む広い空間を屋根で覆っている。また、車いすに対応して、カウンターを低くしている。
県立雄峰高等学校 南砺分校 生徒会	疑似体験等を通して高齢者や障害者に対する理解を深め、福祉マップの作成や障害者との交流を行っている。	富山市障害者福祉プラザ (障害者福祉施設)	障害者の在宅生活を支援する機能を備えるとともに、視覚障害者のための音声誘導装置等が設置されている。	富山市障害者福祉プラザ (障害者福祉施設)	障害者の在宅生活を支援する機能を備えるとともに、視覚障害者のための音声誘導装置等が設置されている。
		大沢野町船崎地区 社会福祉協議会	地域の障害者施設と関わりを持ちながら、福祉とは何かという問題提起を行い、手作りの地域福祉を進めている。	とら山いろいろ館 (簡易宿泊施設)	茅葺き農家を再生した簡易宿泊施設に、車いす昇降機やスロープが設置され、障害者への配慮がなされている。
		県立雄峰高等学校 南砺分校 生徒会	疑似体験等を通して高齢者や障害者に対する理解を深め、福祉マップの作成や障害者との交流を行っている。	ゆりの木の里 (精神障害者社会復帰施設)	精神障害者のための施設でありながら、車いす使用者用のエレベーター、点字ブロック等を設け、身体障害者等にも配慮している。
				信行寺 庫裡客殿・参拝用 モノレール(宗教施設)	108段の階段にモノレールを設置。庫裡客殿もバリアフリー化され、本堂まで車いすのまま参拝できる。
				JAIいなばカースクエア福岡 (ガソリンスタンド)	県内の給油所では初めての県民福祉条例適合施設。ポーチやトイレにスロープが設置され、誰もが利用しやすい。



5. 地域の人が集まる喫茶店。
6. 9月のおわら風の盆を前に、作業所は大忙し。

「きらりんぴく」富山ボランティア募集!

来月十月二十八日、二十九日の両日、自分にチャレンジ! あしたにチャレンジ!! をスローガンに、きらりんぴく富山(第三十六回全国身体障害者スポーツ大会)が開催されます。あなたも、身体障害者の自立と社会参加を進めるきらりんぴく富山に参加して、福祉のまちづくりの一翼を担ってみませんか。

◆専用ボランティア

業務内容/ 次の方法による、聴覚障害者の「ミニ」ケーシヨンのサポート

1. 手話
2. OHP(OHPによる要約筆記)
3. ノートテイク(ホワイトボード等による要約筆記)
4. パソコン(電光掲示板等に要約筆記するためのパソコン)入力

◆一般ボランティア

業務内容/ 選手等の介助、案内、誘導、環境美化など募集期間/ 来年一月頃(予定)
※数回の研修で、どなたでも参加できます。
●申し込み・問合せ
身体障害者スポーツ大会室

☎076(444)8618
FAX 076(444)8598

県が取り組む公共工事のコスト縮減

平成10年度は5.6% (約80億円)の効果



遺跡を保護するための盛土作業(上)
波消しブロックを再利用した護岸工事(下)

七月号でも概要をお伝えしたように、県では昨年四月に策定した、富山県公共工事コスト縮減対策に関する行動計画(以下、「行動計画」)に基づいて公共工事の工事費縮減に取り組んでいます。平成10年度の実績は、対策を実施しなかった場合と比べて五・六%(約八十億円)の縮減となりました。

コスト縮減対策の背景と目的

本県では、景気対策への積極的な取り組み等により、県債残高が増加する等厳しい財政状況が続いていますが、こうした中にあっても、限られた財源を有効に活用し、大都市に比べて立ち遅れている社会資本の整備を着実に進める必要があります。

このため県としては、工事の計画・設計等の見直しや、工事発注の効率化をこれまで以上に進めるとともに、国や関係業界の取り組みともあわせて総合的にコスト縮減を図ることにしました。

十一年度末までに10%縮減をめざします

「行動計画」では、平成八年度に実施したのと同じような工事を十一年度を実施した場合、その工事費が、八年度の標準的な工事費に比べて概ね10%安くなるよう目標を設定しています。

10%の内訳は、工事計画や設計の見直し、発注の効率化など、工事を発注する県自身が直接的に工事コストの縮減を図る「直接的施策」が六%、国や関係業界全体で規格の集約や規制緩和(労働安全基準や建築基準、埋蔵文化財調査など)に取り組むことで間接的に工事コストを縮減する「間接的施策」が四%です。

平成10年度の実績は、直接的施策が四・七%、間接的施策が〇・九%のあわせて五・六%となっています。以下、具体的な事例をいくつか、ご紹介いたします。

波消しブロックの再利用

不要になった波消しブロックを、新たに整備する防波堤の内部に流用することにより、新しいブロックだけで施工する場合に比べて約二十%、全体で六億円の節約になりました。

波を消すには一定の重量が必要なこと、防波堤の表面は、従来どおり新しい大型ブロックを使用せざるを得ませんが、内部については、不要になった波消しブロックを再利用することでコスト縮減を図っています。

下水道工事への新工法の導入

下水道工事新しい工法を導入することにより、従来の方法に比べて約三十八%、全体で七億円の節約になりました。

下水道管の敷設工事では、まず立坑を掘り、そこから掘進機を入れて横穴を掘りながら管を敷設していきます。摩擦の影響により、一回に掘れる推進距離は、従来一〇〇〜一五〇mで、立坑はこの距離ごとに掘る必要があります。今回、掘進機の周りに高濃度の泥水を供給して摩擦を小さくすることにより、推進距離が二五〇〜三〇〇mに伸び、立坑の数を減らしてコストを縮減することができました。

目標達成に向けて、引き続き取り組みます

このようなコスト縮減対策は、他の都道府県でも実施されています。このうち各都道府県の独自性が発揮される「直接的施策」の平成10年度実績をみると、全国平均四・二%に対し、本県は四・七%となっています。このようにことから、平成10年度における本県の取り組みは、一定の成果をあげたものと考えられます。

県では、平成十一年度が行動計画の最終年度であることから、目標達成に向け、より一層、コスト縮減に向けた施策を進めることとしており、行動計画の推進状況の綿密な把握、その結果や優良事例の現場への速やかな反映、講習会の開催などによる職員一人ひとりのコスト意識の定着などに努めることにしています。

問合せ・ご意見は、県庁財政課まで
076(444)3169

土砂の有効活用

工事現場で発生する土砂を道路盛土材などに活用することにより、新たに土砂を購入する場合に比べて1m当たり千五百円〜四千元、全体で二十億円の節約になりました。



工事で発生する土砂については、これまで有効活用を図ってきたところですが、土砂が発生する場所や時期と、受け入れる側の場所や時期とが必ずしも一致しないという問題がありました。このため、土砂の需給調整を行う範囲を、これまでの広域圏程度のエリアから、県の半分程度のエリアに拡大するとともに、需給の時間差調整を行えるよう、土砂の仮置き場を増設するなどして、より有効な活用が可能になりました。

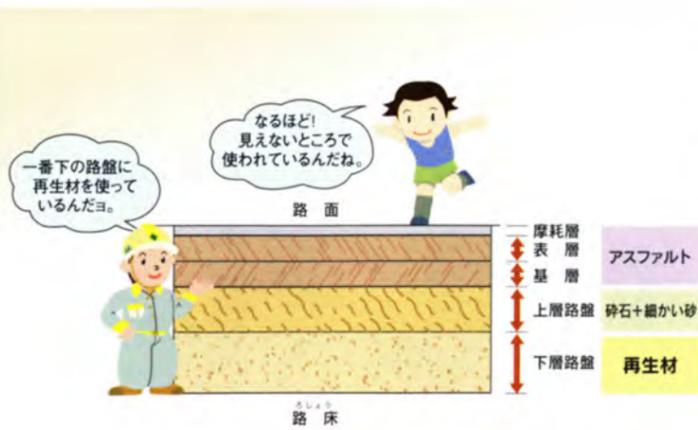
土砂は、道路盛土材のほかにも、埋蔵文化財がある場所のほ場整備において、遺跡を保護するために行う盛土などにも利用されています。

リサイクル材の利用

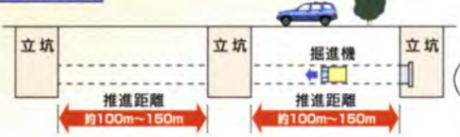
道路舗装のいちばん下にある下層路盤にコンクリート再生砕石を使用することにより、1㎡当たり二百円〜三百円、全体で二億円の節約になりました。

再生砕石とは、コンクリート殻などの建設廃材を再生資源化施設で処理したものです。こうしたリサイクル材を利用することにより、コストの縮減だけでなく、資源の有効活用にもつながりました。

また、道路舗装については、いちばん上にある摩耗層の厚さを交通量の少ない農道で薄くするなど、実情にあわせた工夫もしています。



従来の工法



新しい工法



※高濃度泥水は、掘進機のまわりの摩擦を小さくします。



コスト縮減だけでなく、道路の混雑軽減というメリットもあります。



来館者が多いのは、やはり夏。空気がすっきりとしないが、晴天が多いため、天文観測には適している。8月には流星群も見られる。

富山市天文台

1959年、呉羽山に開設され、長く市民に親しまれてきたが、老朽化と周辺環境の変化により、1997年古洞の森地域に移転した。富山市科学文化センターの附属施設で、天文観測や解説など天文普及活動を行っている。国内最大級の口径1mの反射望遠鏡を備え、高精度な観測が可能。周辺は、「県民公園野鳥の園」に指定されており、野鳥の観測も楽しめる。

開館時間 / 日・火・水曜日 午前9時～午後4時30分
木・金曜日 午後1時～午後9時30分
土曜日 午前9時～午後9時30分
観覧料 / 大人210円、小・中110円
休館日 / 毎週月曜日、休日の翌日、年末年始
問合せ / ☎ 076 (434) 9098

今月の行事予定

- 定期観測会
毎週木・金・土曜日
午後7時30分～午後9時30分
- 特別観測会
ペルセウス座流星群を見る会 (参加無料)
8/12(木) 午後10時30分～午前0時
天王星が月に隠される様子を見る会
8/25(水) 午後8時30分～午後9時30分
- 天文教室
火星探査機「のぞみ」の模型を作る
8/21(土) 午後1時30分～午後4時
定員10名 (実費が必要)
往復はがきによる申し込み 8/10締切



「星座の部屋」では、季節ごとの星座の解説を聞けるほか、自分の好きなプログラムを見ることが出来る。



展示コーナーでは、太陽系や銀河など知りたい項目を選んで調べることができる。



望遠鏡の接眼部は、観測しやすい高さになっており、小さな子どもでものぞける。



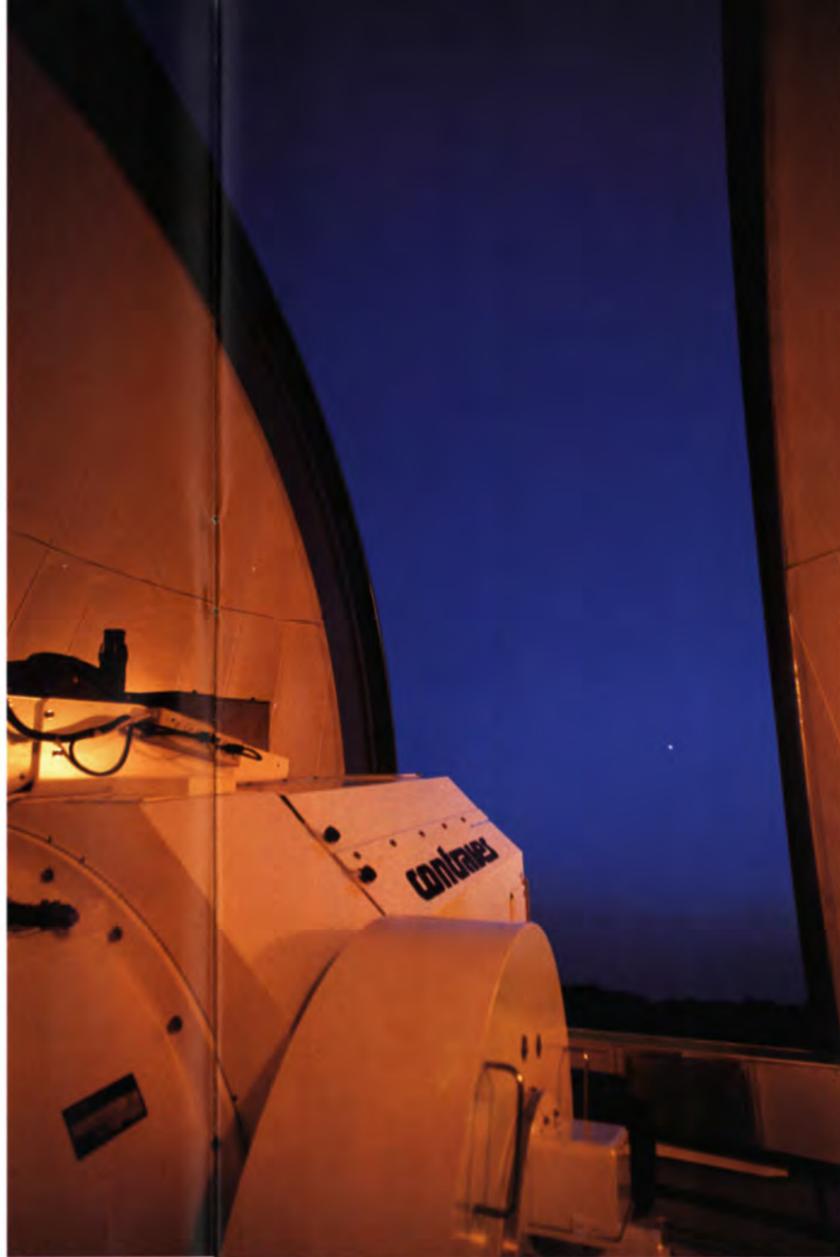
誰もが楽しく星を観測できるドーム。来館者には学芸員がついて、望遠鏡の説明をしながら実際にのぞかせてくれる。ここへ昇る階段には、車椅子用のリフトも設置されている。



館内には学芸員が撮影した星の写真が展示されている(写真はしし座流星群 98年11月撮影)



野鳥観察「ナード」からは、周辺の鳥たちを見ることが出来る。庭には水場もあり、時々水浴びに来る。



ドームの外は、美しい夕闇。反射望遠鏡が、金星をとらえている。ビデオに切り替えれば、モニター画面でも見ることができる。



天文台までは、車を降りて歩いて行く。道沿いに、星や天文台の話を書いたフレイトがある。読みながら行くと、とまめきも高まる。



富山市 天文台



天文台のドームは銀白色が多いが、ここは緑色。野鳥たちが光るものを嫌うことへの配慮である。



古洞池に架かる「どんぐり橋」。水鳥の観察もでき、散策コースになっている。

緑の森で、星の輝きを見つめる。科学とロマンが、ここで出会う。

豊かな自然と美しい宇宙に、心を飛ばそう。

野鳥にやさしい森は、星を見るのにもやさしい森。

人は、なぜ星を見上げるのだろうか。きらめきの美しさ、不思議、ロマン、そして、自分たちの力では計り知ることのできないものへの思い。星は、見つめる者の心に、いつも何かを与えてくれる。

富山市天文台は、古洞の森にある。あたりは、県民公園野鳥の園になっており、豊かな自然が残されている。天文台の立地条件のひとつは、街の光の影響が少ないこと。ここは、天文観測に適した場所なのだ。野鳥と星を観測しやすい環境を守るため、駐車場は天文台の八〇〇メートル手前にある。ゆっくり歩いていくと、緑のなかにエメラルド色のドームをもった美しい建物が見えてくる。

光ファイバーの星たちが、星座をご案内。

館内では、天文台のスタッフが、ガイドをしてくれる。一階の「星空の部屋」では、季節ごとの星座や流星などについて解説。星座が投影されるプラネタリウムと違い、ここは光ファイバーで満天の空を演出している。椅子もあるが、床に横になっても見られる。宇宙に体を投げ出したような気持ちで、ゆったりと話を聞ける。二階は、展示コーナー。隕石や天体

写真などの展示があるほか、コンピュータやビデオで宇宙のことを調べることが出来る。また、野鳥観察コーナーもあり、のんびりバードウォッチングできるのも、この天文台ならではだ。

一メートルの反射望遠鏡が、きらめく星をとらえる。

三階に昇り、天文台のシンボルともいえるドームへ。ここには、国内最大級の凹面鏡をもつ反射望遠鏡がある。この望遠鏡は、コンピュータで制御されており、軌道や座標を入力すれば、天体を正確にとらえることができる。

ドームが開くと、すっかり暮れなずんだ森の空に、星がまたたいている。望遠鏡の動きも、ドームの回転や開閉も、どこかSF映画のようで楽しい。今、望遠鏡は、宵の明星をとらえた。一億八二〇万キロメートル彼方の天体が、三日月のように欠けて、ゆらいだ光を反射しているのが見える。初めて見る黄色を帯びた惑星。心の中で歓声が上がる。

何億キロ、何億光年向こうの光を、見ていることの不思議さ。それらを観察し、解明した科学の面白さ。美しいだけでなく、すごいだけでもない。人間と宇宙の関わり不思議。光る小さな星を見ることは、私たちのなかの何かを回復させてくれる。



若井直美さん
(わかいなのみ)

1948年生まれ、
黒部市在住。
グループ樹の実代表

PROFILE

企業の情報紙や地域情報紙の編集者。取材から執筆・制作まで、ひとりてこなす。平成8年に、県のナチュラリスト養成講座を半年にわたり受講。自然と人の関わりかたを学び、講座終了後に地元新川地区のナチュラリストたちと林業研究グループ「樹の実」を結成した。森林や林業の大切さなどの情報発信を目的に、自然愛好家の人々と活動を行っている。また、環境や福祉問題にも関心を向け、幅広い活動を行っている。



森は、かつて人々の生活にとって身近な存在だった。キノコや木の実を採ったり、薪や炭を得たり、人間は自然の恵みと生命力を森から受けていたのである。しかし、社会が変化するなかで、人間はやがて森を忘れた。薪や炭は、もう主要なエネルギーではなく、「里山」という言葉さえ知らない世代が育っている。今、多くの山は荒れ放題だという。「グループ樹の実」は、豊かな森林の再生と林業の普及を目的に結成され、雑木林を活用して、人と里山の親しい関係を回復しようとしている。



森を舞台に開催したネイチャーフォト教室

森を健康にしよう

富山で生まれ育ち、一度離れたところのある人間は、富山の自然の豊かさを再発見する。若井さんも、そうだった。しかし、これほど恵まれているのに、自然に目を向ける機会意外と少ない。若井さんは、自然を深く学びたいとナチュラリスト養成講座を受講、その後、自分たちの住む新川地区にも活動の場をつくらうと、地元の仲間とともに「グループ樹の実」を結成した。

ナチュラリストとしての活動は、人と自然が関わるきっかけづくりだが、グループの活動は、それだけにとどまらない。片貝川を六キロほどさかのぼった魚津市島尻地区の里山に、「きのみの森」がある。若井さんたちは、山主から借りた一帯をそう

名付け、ここを拠点として、山と人間の関わりを回復する試みを行っている。

最初に手がけたのは、「きのみの森」にある木の種類と大きさ、形などを一本一本調査し、伐る木と残す木を決めることだった。

「ナチュラリストなのに、木を伐るの？と思う人もいます。私も初めは、木を伐るのはかわいそうだと思っていました。でも、それは森にとってとても大切なこと。木を伐ることで森は明るくなり、いい気が流れ、健康になれるんです」。

適度に人間の手を入れることにより、木はいきいきと伸びる。枯れた葉は、微生物が分解し、栄養となつて土にもどる。森の恵みと生き物たちの共生、そして人間との関わり。

自然を体で感じよう

「森へ来て、いちばん輝いているのは子どもたちです。どんぐりを拾ったり、座って絵を描いたり」。

若井さんは、もっと子どもたちに自然を体感してもらいたいと、子どもたちが自然と関わるきっかけづくりにも力を入れている。

「いままでいろいろなことに興味を持って、夢中になってやってきた。のめりこむ性格なんです」と、こやかに語る若井さん。今は、森がいちばん似合う。「きのみの森は、『癒しの森』だと思っています」。

ここに来ると、いつまでもいたくなると思う。誰もが自然とふれることで与えられる何か大切なもの。それが、森にはある。若井さん自身も、森の中で感じるようなすがすがしさを、会う人の心に残す、そんな人だ。活動といっても、肩ひじ張ってやるうとは思わない。まずは、この里山で、森と人の共生について、地元の人々や子どもたちと一緒に学び、ネットワークを広げていきたい。若井さんは、いつでも自然体で、しなやかな活動を続ける。



「きのみの森」の入り口にある手作りの階段

森には、癒しがある。
いつまでも、ここに
いたいと思う。

「森にいるときが、いちばん落ち着く。いつまでもここにいたい」。そう話す若井さんの顔は、いきいきとしている。「こんな落ち葉の下の微生物だって、大切な役割を果たしている。再生というか、大きな流れで考えないと」。

●問合せ/グループ樹の実事務局
魚津農地林務事務所林務課内
☎ 0765(22)9146

近代美術館
第7回富山国際現代美術展
 TOYAMA NOW'99 ポーランド・日本
 [9/5(日)まで]
 一般1,000円/高・大750円/小・中500円
 ポーランドと日本の現代美術を「内と外」を
 テーマに対照して紹介します。
99公募：日本海美術展
 [9/11(土)~10/24(日)]
 9:30~17:00 (休)月曜・祝日の翌日
 常設展示観覧料
 一般200円 高・大160円 小・中100円



立山博物館
特別企画展「火山・立山大噴火」
 [8/29(日)まで]
 一般100円/高・大80円/小・中50円
 現在も活動している立山火山を一例に、火
 山活動を科学的な視点から分析します。
講演会を予定しています。
 [8/8(日) 14:00~16:00] ※入場無料
 会場/富山県民会館401号室
 講師/白尾元理氏(火山写真家)
 演題/空から見た日本の火山・世界の火山
 9:30~17:00 (休)月曜・祝日の翌日
 一般650円 高・大400円 小・中250円



国際健康プラザ
オープニングイベント
 [8/6(金)~8(日)]
 世界のハーブ展やアロマテラピー、ハーブテイ
 ーのサービス、健康づくりのためのイベント
開館記念講演
 [8/21(土)14:00~] 入場無料
 講師/瀧美和彦氏(県健康スポーツ財団顧問)
 演題/健康と長寿のための秘訣
 (休)月曜・祝日の翌日
 生命科学館 9:30~17:00 200円
 健康スタジアム 10:00~22:00(日・祝は19:00まで)
 1日1,800円/2時間半 1,500円/1時間 1,000円



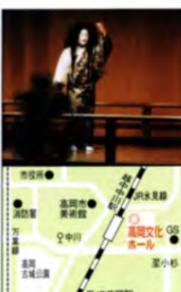
中央植物園
夜の熱帯植物観察会
 [8/7(土)・8(日)19:00~21:00] 展示温室
 一般300円/小・中150円
企画展示「お盆の植物展」
 [8/13(金)~18(水)] サンライツホール
日曜植物案内「秋の七草」
 [9/5(日)11:00~12:00] 当日受付
 9:00~17:00
 (休)木曜・祝日の翌日
 一般600円 小・中300円



海王丸パーク
スターダストドリーミング in 海王丸パーク'99
 [8/14(土) 17:00~21:00]
 陣内大蔵のアカースティックライブや花火など。
海王丸イルミネーション
 【毎週金・土曜と8/31(火)までの毎日】
 日没から21:00まで
入園自由
 帆船海王丸は9:30~17:00
 8/15までは21:00まで
 8/17~8/31は18:00まで
 (休)月曜・祝日の翌日
 一般400円 小・中200円



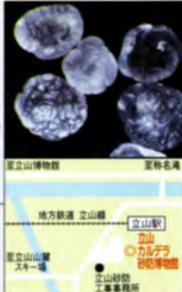
高岡文化ホール
宝生流・観世流・和泉流三派合同
第13回能楽鑑賞大会
 [8/29(日) 一部9:00~、二部13:30~]
 指定4,500円/自由3,500円
 (当日各500円高)
'99シャンソン・フェスティバル
 [9/19(日)14:00~]
 出演/堀内環、広瀬敏郎、奥田晶子ほか
 S席5,000円/A席4,000円
 (当日各500円高)



水墨美術館
土門拳展
 [8/22(日)まで]
 日本を代表する写真家土門拳の世界を、代表
 作「古寺巡礼」シリーズを中心に紹介します。
 一般700円/高・大500円/小・中350円
近代陶芸の巨匠 河井寛次郎の世界
 [9/4(土)~10/7(木)]
 一般900円/高・大650円/小・中450円
 9:30~17:00
 (休)月曜・祝日の翌日
 常設展示観覧料
 一般200円 高・大160円 小・中100円



立山カルデラ砂防博物館
企画展「立山に産する玉滴石」
 -オパールの世界-
 [9/26(日)まで]
 立山カルデラ内の新湯で産出するオパールの
 一種「玉滴石」の特色と産状や、国内外の
 代表的なオパールを紹介します。
 9:30~17:00(8/31まで8:30~17:00)
 (休)月曜・祝日の翌日
 一般400円 高・大320円 小・中200円
 ※企画展のみ観覧の場合は無料



こどもみらい館
造形アドベンチャー「海」
 [8/30(月)まで]
 魚や貝殻など、「海」をテーマにした4種類の
 制作活動が体験できます。
 材料代 各200円
企画展示 日本のお面たち「子どもの遊びとお面」
 -神楽面とキャラクター面-
 [9/5(日)まで]
 9:30~17:00(8/31まで9:30~18:00)
 (休)火曜・第4水曜・祝日の翌日
 入館無料



県民公園太閤山ランド
ベクトルロケット競技会&講習会
 [8/8(日) 9:00~15:00]
プールでパフォーマンス
 [8/13(金)~15(日)]
 ①11:00 ②12:00 ③13:30 ④14:00
 プール広場で大道芸をお楽しみください。
サマーナイトフェスティバル
 [8/21(土) 16:00~20:45]
 緑日コーナー、花火大会等
 9:00~17:00 (休)火曜・祝日の翌日
 入園無料



県民会館
第2回富山ストリングオーケストラ公演
 [8/10(火) 19:00~]
 指揮:松尾葉子、ピアノ:中沖玲子
 <プログラム>
 コレリ:合奏協奏曲二長調 op.6-4
 グリーグ:ホルベルグ組曲 op.40
 シュトニケ:モーツァルト・ア・ラ・ハイドン
 ショスタコーヴィッチ:ピアノ協奏曲第1番/短調 op.35
 一般3,000円/高校生以下1,500円



県民小劇場オルビス
感動の発見ライブ in オルビス
Vol.13 ギターっておもしろい!
 [9/7(火)18:30~]
 出演/鈴木大介(ギター)、渡辺香津美(特別共演)
 3,000円(会員は無料)



編集部から

県広報とやまの配布箇所として、新たに、公立文化ホール、公共温泉施設、運転教育センターが加わりました。また、駅への配置も従来の4駅から16駅に拡大しました。今後も少しでも入手しやすくしていきたいと思っておりますので、「ここに置いてあげたい」というご意見があればお寄せください。

県広報とやまの各世帯配布版(年3回発行)は、新聞折込で各家庭にお届けします。また、通常版(年7回発行)は、次の場所で無料配布するほか、郵送による定期購読も受け付けています。

主な配布箇所
 県庁、県刊行物センター(県民会館1階)、県の各施設、市町村役場、図書館、文化ホール、公共温泉施設、富山市民プラザ、いきいきKAN(富山駅前CIC5階)、高岡駅観光案内所、JR駅(一部)、富山空港、東京事務所、大阪事務所、名古屋事務所

定期購読の申込方法
 郵便番号・住所・氏名・電話番号・購読回数(通常版の回数)を明記し、郵送料として1回当たり160円分の切手を同封のうえお申し込みください。
 ※購読期間中は、通常版・各世帯版の両方を郵送しますが、郵送料の負担は通常版の方だけで結構です。

あて先
 〒930-8501(住所不要) 富山県庁広報課「県広報とやま」定期購読係

3月号プレゼント当選者
 ■魚津埋没林博物館 オリジナルテレホンカード
 五十嶋まち子さん(富山市)、田中豊美さん(高岡市)、寺崎美代子さん(氷見市)、米沢武さん(入善町)、中村光延さん(上市町)
 ■ピンナップとやま写真
 尾崎昌成さん、村井弘義さん、網谷園江さん、竹内美矢子さん(富山市)、竹村カズイさん(高岡市)

9月号(通常版)は9月上旬に発行予定です。

INFORMATION

ジャパン・ワイルドライフ・フェスティバル'99

入場無料

~第4回世界自然・野生生物映像祭 in 富山~

世界トップレベルの、自然や野生生物の映像が富山に集合。すばらしい大自然のドラマや、ひたむきな生命の営みを体験してください。



開催期間/8月19日(木)~22日(日)
 上映時間/午前10時~午後5時(予定)
 会場/富山市民プラザ(メイン会場)
 高岡おとぎの森館(サテライト会場)
 黒部市吉田科学館(サテライト会場)

- ◆世界各国からの応募作品300点の中から最終ノミネートされた22作品や、すぐれた招待作品を上映。最終日には大賞ほか各賞が発表されます。
- ◆今回から、ほとんどの作品が日本語吹替版となりました。お子さんも十分お楽しみいただけます。
- ◆映像上映のほかにも、野生生物映像の撮影ウラ話などのセミナー、シンポジウム、写真展、体験型ワークショップなど、盛りだくさんの企画が皆さんを待っています。

主な上映作品

「禁断の果実」「美女と野獣たち」「キング・コブラ」「最後のカエル」「ザトゥウジラの真実」「野生生物の超能力」「ガラバゴスの吸血鬼たち」「サメの島」「蝶の世界」「鷹の目」
 ※詳細な上映時間については、右記事務局までお問い合わせください。

前夜祭 坂田明コンサート【インフォーマで前売中!】

日時/8月18日(水) 午後7時~
 会場/富山市民プラザ
 入場料/前売3000円 当日3500円

ボランティアスタッフ募集

映像祭の運営に携わるボランティアスタッフを募集しています。ご希望の方は下記事務局まで
 ●問合せ 〒930-0094 富山県安住町6-4
 地球映像ネットワーク JWF 運営事務局 ☎076(445)5460

とやまの情報お伝えします!【8月の県政番組】

こんにちは富山県です 北日本放送テレビ
 毎週日曜 11:00~11:30

1日 ふるさと探訪(井波町)
 8日 あなたの善意を待ってます(献血)
 15日 ジャパン・ワイルドライフ・フェスティバル'99
 29日 高校生のユニーク活動
 ※8月22日の放送はありません。

とやま超発見! 富山テレビ
フォーカス・イン2 毎週日曜 9:00~9:30

1日 とやまの橋(中学生大会)
 8日 地球環境を大切に -エコロジー特集- (小学生大会)
 15日 憧れの仕事(中学生大会)
 22日 夏休み大研究(小学生大会)
 29日 消防特集(中学生大会)

富山見たモン勝ち チューリップテレビ
 第4日曜 10:00~10:52

22日 はじめよう!健康づくり
とやま県間録 FMとやま
 毎週月曜~木曜 11:30~11:40
 毎週土曜 11:30~11:55
 ※タイトルは、いずれも仮題です。

このほか、県からのお知らせは、新聞広報やインターネットでもお伝えしています。
■新聞広報「県からのお知らせ」
 毎月第二・最終土曜日の、北日本・読売・富山・北陸中日・朝日・毎日の各新聞朝刊に掲載
 ※掲載日は変更される場合があります。
■富山県ホームページ
<http://www.pref.toyama.jp/>

県政クイズ 応募お待ちしております。

県の公共工事コスト削減の平成10年度実績は、どれだけだったでしょうか。

「〇.〇%、約〇〇億円」とお答えください。

→答えは7ページにあります。

応募方法

ハガキに、クイズの答え、郵便番号、住所、氏名、年齢、職業と、本誌の感想・入手方法を記載。
 あて先/〒930-8501(住所不要)
 富山県庁広報課「県広報とやま8月号」クイズ係
 締切/9月10日(消印有効)
 正解者の中から5名の方に、特集でご紹介した、おわらの里ふれあいホーム製「和紙おわら切り絵うちわ」をプレゼントします。





とやま 音のある 風景

ひと撞きにこめる祈りは
あいの風にのって。

Vol.15
平和の鐘
●高岡市

二上山

さやさやさや……。二上山万葉ライン、平和の鐘がある鉢伏山展望台に立つと、風が涼やかな音をたてて渡っていく。海から吹く「あいの風」だろうか、かすかに潮の香りがする。

射水平野の北端に位置する二上山は、標高二七四メートルの主峰と二五九メートルの城山からなる双耳峰である。山名は、古代の人々が二つの峰を双神と呼び、あがめたことに由来するという。天平の昔、越中国司として赴任した大伴家持がこの山を愛し、多くの歌を万葉集に残した。展望台からの眺望はすばらしく、近くは帯のように輝く小矢部川から、遠くは立山連峰までを一望し、左手には海岸線がかなたへと美しい弧を描いている。

ゴォーン……と、鐘の音が辺りに響きわたる。梵鐘の周りに描かれている釈迦の慈悲だろうか。その音色は深く、温かい。しきりに鳴っていたウグイスが、驚いて鳴きやむかと思えば、こともなげに歌い続けている。

この平和の鐘は昭和四十四年、高岡開町三百六十年と市制八十周年を記念し、永遠の平和と繁栄を願って、二上山に奉賛された。そのおだやかな音色を慕って、訪れる人が絶えない。気の早い萩が、もう赤紫の花を咲かせている。夕鐘の音はどこまで届くのだろうか。

※県では昨年、未来に伝えたい、残したい、県内五十箇所の「とやまの音風景」を認定しました。